

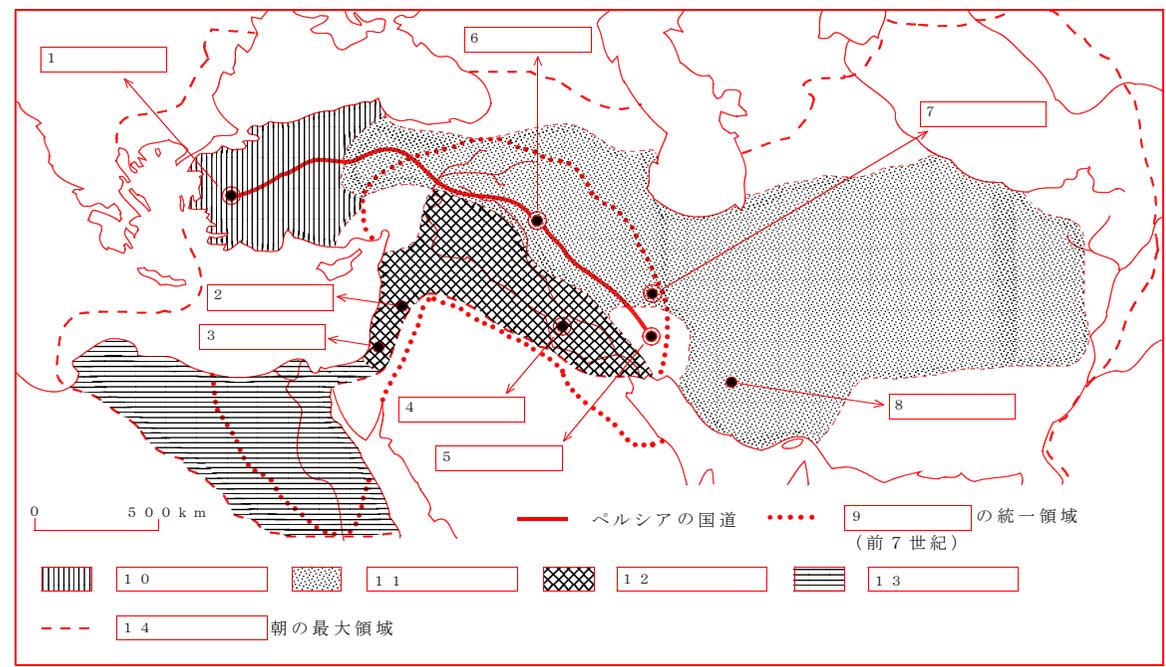
第1章 1古代オリエント世界 g.古代オリエントの統一 (教31~32 図50)

前2千年紀はじめ[1 **ニネヴェ**]を首都として北メソポタミアで建国した[2 **アッシリア**]はしだいに領土を拡大し、ついに[3 **7**]世紀初めに[4 **全オリエントの統一**]に成功した。しかしこの国は 抑圧政策を強いたため反叛、諸民族の反抗を招き、前612年滅亡した。

その後、オリエントの地は、メソポタミアを支配した[5 **新バビロニア**](カルデア)、イラン高原を支配した[6 **メディア**]、小アジアを支配し[7 **金属貨幣**]の製造をギリシャ人へ伝えたことでも有名な[8 **リディア**]、エジプトの四カ国に分裂した。

前525年オリエントを再統一したのが[9 **アケメネス朝ペルシア**]である。この国は[10 **ダレイオス一世**]のとき全盛をむかえ、[11 **エーゲ**]海から[12 **インダス**]川にいたる大帝國を樹立した。そして異民族にたいし[13 **寛容**]な政策をとった。また広大な領土を支配するための制度を整えた。この国は前5世紀前半、西方の[14 **ギリシア諸国**]と[15 **ペルシア**]戦争を戦ったがやぶれ、前4世紀後半、マケドニアの[16 **アレクサンドロス**]王に滅される。

この国で善悪二元論に基き[17 **火**]を神聖化する、[18 **ゾロアスター**]教が生まれた。



アッシリア・4王国・アケメネス朝の領域

- ①[19 **アッシリア**]帝国 前2000ころ,[20 **メソポタミア**]北部で建国、中継貿易に従事 首都ニネヴェ・[21 **セム**]系
- [22 **鉄製**]武器と戦車・騎兵隊で征服活動を強化→前7世紀前半、23 **オリエント統一** に成功
- 支配政策=強大な[24 **専制君主**]として中央集権化を図る。
- 服属民族に25 **抑圧政策(重税と圧政)**を強いる→前612年、26 **諸民族の反乱**により崩壊
- ②四国の分立
 - メソポタミア[27 **新バビロニア**](カルデア)…メソポタミア、シリア、パレスティナを支配 →ユダを滅ぼし[28 **バビロン捕囚**]をおこなう
 - イラン高原 [29 **メディア**]
 - 小アジア [30 **リディア**]]=[31 **金属貨幣**]を製造。交易を活発化
 - エジプト 独立を回復する
- ③前6世紀中期、ペルシア([32 **アケメネス**]朝出現、前525 **33 オリエント再統一**を実現 首都スサ→[34 **ペルセポリス**])

- ア)エーゲ海北岸からインダス川にいたる大帝國をたてる→[35 **ダレイオス一世**]のとき全盛 帝國を20余の属州にわけ[36 **サトラップ**](知事)をおき支配させる →監察官([37 **王の目王の耳**])を各地に巡回させ、サトラップらを監視する
- [38 **王の道**]とよばれる国道をつくり、[39 **駅伝**]制を整備する。
- イ) 異民族への[40 **寛容**]な政策=とくにアラム人、[41 **フェニキア**]人重用→[42 **商業**]保護 ※アッシリアの異民族に対する政策は異民族[43 **抑圧**]政策
- ウ)前5世紀 [44 **ギリシア**]諸国との間で[45 **ペルシア**]戦争を戦うが破れる。 →以後もギリシアに介入をつづける。

④ゾロアスター教の成立=特徴は46 **善悪二元論と火の崇拜**

ゾロアスター教…[47 **アケメネス**]朝ペルシアで生まれ、ササン朝ペルシアで発展したペルシア(=イラン)人の民族宗教。この世を善(=光)の神アフラ=マズタと悪(=暗黒)の神アーリマンとの絶え間ない戦いと説く[48 **善悪二元**]論にたち、人間は最後の審判により樂園に入れると説いた。[49 **火**]を神聖視したため[50 **拝火**]教とも呼ぶ。[51 **天使と悪魔**]や[52 **『最後の審判』**]の観念などはユダヤ教や[53 **キリスト**]教にも大きな影響を与えた。また、絹の道を通して、中国の[54 **唐**]にも伝えられ、[55 **：教**]と呼ばれる。教典はササン朝でまとめられた[56 **アヴェスタ**]。

- ⑥ギリシア人の[57 **アレクサンドロス**]大王の攻撃を受け、滅亡